

## 特選 [MR誕生100周年記念論文コンクール『私が目指すMR』]

「相談されるMR ～アンメット・メディカル・ニーズを充足するために～」

高橋 慎（エーザイ株式会社 大阪医薬三部）

私は入社6年目、大阪市内でご開業の先生方を担当しているMRです。MRが誕生100周年を迎える中で、私のMR経験はそのうちの1割にも満たないものです。それでも今回、この投稿を決めたのは、私に明確な「めざすMR像」が出来たからです。それは、最近出会った事例から得た「気づき」なのですが、「このような仕事をもっとしたい」という想いが、今のMR活動の原動力となっております。

これまで私は「医師に必要とされるMR」を目指し、活動してきました。訪問規制が厳しくなる中でも、医師から情報提供を求められるMRになるため、「迅速かつ公平で質の高い情報提供を行う」ことが私のモットーです。そして、医師からの質問・相談に誠実に応え、信頼を獲得することにMRの価値があるのだと考えております。「私」への信頼が「私の提供する情報」への信頼となる。そしてそれが「医薬品」に対する信頼へと変わる。医薬品の適正普及は、医師からの信頼のうえに成り立っているものと考え、いわば「医師のためのMR活動」をしてきました。しかし、そこから更に広い視野を持つことで、「患者様のためのMR活動」ができることを学びました。きっかけは、薬剤師のP先生からの相談でした。P先生とは、日頃からお問い合わせを頂く機会も多く、気軽に情報交換ができる良い関係にありました。そして、このような関係性があったからこそ出来た経験でした。

ある日、その薬局へ慢性閉塞性肺疾患(COPD)治療薬の情報提供に伺うと、P先生はこう言いました。「まさに今、この病気で困っている患者さんがいる」「治療薬は以前から処方されているのだが、病気が進行し、症状が強くなっている」「これまでの薬では症状を取りきれず、患者さんが辛そうである」「かかりつけ医のD先生に相談することを薦めているのだが、患者さんからは相談できずにいる」「この薬で患者さんが楽になるかもしれないので、D先生が処方を検討するよう情報提供してほしい」とのことでした。

この相談を受けたとき、私には葛藤がありました。処方薬というのは、医師が患者様にとって最善であると判断し、選択しているはずで、その処方に対して「お困りの方がいるので薬を見直してほしい」と提言することは、医師の判断を否定するようで、私がこれまで拘ってきた「信頼」を失いかねないと思えたからです。しかしその一方で、患者様の困っている姿が目に見え、どうしてもその方を助けたいという想いが強くなりました。

私は決心し、D先生に製品の情報だけでなく実際に症状でお困りの方がいることを伝えました。そのときのD先生の顔は心なしか陰しく見え、処方提案も受け入れられませんでした。それでもP先生と連携しながら、D先生に繰り返し情報提供を行いました。患者様の来院前にD先生を訪問し、来院後にはP先生と処方状況を確認する。このような活動を継続して行いました。そしてついにその薬が処方されたのです。私はすぐにP先生を訪問し、患者様のご様子を伺いました。その方の症状はこれまで以上に改善し、P先生は大変感謝されたそうです。

今回の私の行動は、必ずしもすべての医師に受け入れられるものではありません。D先生が処

方を決めたのは、薬のデータよりむしろ、私とP先生を信用して下さったからではないかと感じております。しかし、患者様に喜ばれたことで、D先生にもこの薬を高くご評価頂けるようになりました。私は患者様を第一に考えMR活動をしました。そしてその結果、患者様だけでなく医師にも薬剤師にも喜んでもらえたのです。私にとってこの経験は、MRの存在意義を改めて実感する、非常に大きな出来事となりました。

私がこの事例から学んだこと。それは、「医師に必要とされるMR」を目指しているだけでは、このようなMR活動は出来ないということです。今回の経験が出来たのは、「医師から信用される関係」が築けていたことに加え、「薬剤師から相談される関係」を築けていたからです。つまり、現在の治療でお困りの方がいても、私がそのことを知る機会をつくれなければ、その悩みを解決するために働きかけることはできないのです。

現治療に満足出来ていない患者様はきっとまだまだいます。そして、困っていると本音を言える相手は必ずしも医師とは限らないのです。薬剤師かもしれないし、看護師や受付の方かもしれないのです。私がお声に応えるためには、これまで以上に多くの方から信頼され、そして相談されるMRにならなくてはなりません。

「アンメット・メディカル・ニーズ」という言葉は、一般的に治療薬の開発の進んでいない疾病に使われます。しかし、たとえ薬が開発されていても、必要としている方に処方されていなければ、それは「アンメット・メディカル・ニーズ」のままなのです。そして、その問題を解決できるのがMRなのです。私が目指すのは、身近に潜む「アンメット・メディカル・ニーズ」を充足できるMRです。

\*アンメット・メディカル・ニーズ 「未だ有効な治療方法がない医療ニーズ」